

子どもの社会形成力を育成する 「21世紀型学校・授業」を考える



鳴門教育大学教職大学院教授

西村 公孝 氏

教育随想



平成24年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
鳴門教育大学教職大学院教授 西村 公孝氏	
この人に聞く	2
舞踊家・ 光ヶ丘女子高校ダンス部コーチ 石川 雅実氏	
羅針盤	2
美川中 校長 石川 守彦	
ふれあい	3
城北中 杉山 雄一	
特集	4
葵 三大イベント ～力・技・美の祭典～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
三校合同交流会	
この本を	8

私は、「児童・生徒の社会形成力をどのように小中高一貫のカリキュラムで育成していくか」、その理論と実践の融合を研究課題としています。過去九年間、毎年九月に行われる教育研究大会総合的な学習分科会の助言をさせていただきました。平成二十三年度までに一九五編の優れた実践レポートを読ませていただき、その報告を聴いてきました。今年度には、二〇〇勝ならぬ二〇〇編を確実に超えるということで、この原稿が読者の目にとまる頃は、「名総会」（私の大好きなプロ野球の名球会をもじって）の会員になっていたいと思います。また、二〇〇五年には岡崎小中六十校の挑戦『地域カリキュラムで総合的な学習を創る』（明治図書）を刊行させていただきました。

岡崎市は、現在、ESD教育に力を入れていきます。「持続可能な社会の形成」は、未来の形成者を育てる学校の教育力にかかっています。今日、グローバル・リスク社会時代を生き抜く能力の育成が緊要な課題になっ

ています。これまで以上に子どもを社会の形成者とし、二〇二一年型学校・授業」を再考することが必要かと思えます。それは「自立」と「共生」と「参画」をキーワードとして、知識基盤社会時代に生きる未来の形成者としての資質・能力を育成する学校・授業が求められていると考えます。

具体的には教育の本来の姿であった「個」に焦点をあてたキャリア教育と、七十億人の多文化・多価値社会で生き抜いていくためのESD教育に着目し、「二十一世紀型学校・授業」を探究することではないでしょうか。二十世紀型学校・授業は、明治以来の国家・社会の形成者育成のための知育中心の教育であったと言えます。今日の社会は、グローバル化と情報化が急速に進展し、個や集団の意思に反して、様々な政治、経済、社会リスクを我々は抱え込んでいます。

このような転換期の教育では、他者と繋がりながら知恵を出し合っ

きていく、生き抜いていく「自立」「共生」「参画」の能力育成が求められています。それは「自助」の精神を基本に「公助」を補完する「共助」に関わる人間関係社会形成能力の育成であり、物事や課題を他者と議論して、解決に向けて熟考することができ「考える人間」を育てる学校・授業の創造が課題となると考えます。

岡崎の教育に期待しています。
(にしむら きみたか)



この人に聞く



自分の色をもつて

舞踊家・

光ヶ丘女子高校ダンス部コーチ

石川 雅実 氏

「モダンダンスは心の表現です。」と語る石川さんは、モダンダンス世界大会ファイナリストという実績をもち、指導者としても、母校の光ヶ丘女子高等学校や、自身の開くダンス教室で多くの生徒を教えている。それらの功績が認められ、昨年度「愛知県芸術文化選奨・文化新人賞」を受賞した。

「私が中学生の時、ダンスクラブをつくった素敵な先生がいました。踊りが好きだったことと、その先生への憧れから迷わず入部しました。私の活動の様子を見ていた別の先生に、『君はダンスに向いている。ダンスを続けてみたら』と言われました。その言葉が忘れられなくて、高校でもダンス同好会に入りました。」

「高校では大学の先生が指導に来てくれていました。その先生は私を呼び止め、『ダンスは好き』と聞いてきました。『はい』と答えると『続けてね』とだけ言われました。」

二人の先生に「続けて」と言われたことは偶然かもしれないが、その言葉に導かれて今があると石川さんは感じている。

「私の印象に残っている先生は、個性的な人ばかりでした。自分の色をもつて生徒と向き合っていました。」

高校の思い出を語ってくれた。「高二の時、ダンス同好会が部活動に格上げされ、全国大会を目指しました。当然、顧問の先生の指導も厳しくなり、あいさつなど生活面も指導されるようになりました。すると、のんびりした雰囲気慣れた生徒と先生が対立してしまいました。先生はあきらめずに真剣に思いをぶつけてきました。その先生を見て、私は気付いたので。『先生が正しい』と。それから、私が率先して規律を守り、あいさつをするようにしました。次第に、私に続く仲間が増え、二年目に念願の全国大会に出場することができました。」



この経験が、今の石川さんの生き方につながっているようだ。「今でも多くの人にあいさつをほめられます。小さなことでも見えてくれる人はいます。日々の積み重ねが人の心を動かすのです。ある日、ダンス教室の保護者に、『先生は商品だよ。親は先生を見て入る教室を決めているよ』と言われました。自分をもつと磨かなくてはと思います。教えることで、私も生徒と一緒に成長できることが喜びです。」

ダンスの技術も大切だが、それだけでは足りない」と石川さんは考えている。

「決まった型がないことがモダンダンスの楽しさです。『怒り』や『喜び』といった感情を自由に体全体で表現できます。でも、今の子は自分のことを話すことが苦手ですね。恥ずかしがらず感じたことをもつと話してほしいと思います。虹や道端のタンポポにも感動してほしいと思います。心を解放するのがモダンダンスです。だから、学校のダンスの授業でも、先生方には思い切りやってほしいのです。笑われたっていいから、自分色のステップを子供たちに伝えてほしいと思います。一生懸命な姿は必ず子供に伝わります。」

豊かな表現力を必要とするモダンダンスだからこそ、石川さんは人間としての内面を大切にしている。

氏名 いしかわ まさみ
住所 岡崎市城北町

羅針盤



子とともに

美川中 校長

石川 守彦

子供への指導が厳しすぎるのではないかと、反対に甘すぎるのではないかと、保護者からご意見をいただくことがあります。

現状の子供たちのもつ力のレベルよりも、少し無理を強いて練習を積ませることは、負荷をかけることで子供を鍛えることになり、力を付けるためにはぜひ必要なことです。現状で簡単にできる範囲のものをいくらか繰り返しても、力が伸びることはありません。

では、少し無理を強いるのに、どのくらいの負荷なら妥当なのか、そこが重要になります。どのような子供なのか、どのような場面なのか、どのようないきさつがあるのか。これらを総合的に判断して、指導に当たらねばなりません。



受け継ぐ伝統

城北中 杉山 雄一

昨年、オーケストラ部は、学校創立五十周年を祝し、文化祭でプロのクラリネット奏者をお迎えし、共演することが確定していた。曲は、プロでも難しいと言われる「クラリネット協奏曲」である。

また、文化祭直後の十一月六日、創立五十周年記念式典での演奏の全てが、オーケストラ部に任せられた。

さらに、その一週間後には、全国大会につながる最も大切なコンクール、中部日本決勝大会が控えていたのだ。コンクールのための練習は、どう考えても直前の一週間しかない。三年間必死に練習してきたこの子たちが、最後の最後に全力を尽くしたとは言いがたい状態で、コンクールを迎えることになるかもしれない。

このような過酷な状況の中で、部長のA子はどんなことを思っていただろうか。彼女はこれまで不満一つ

こぼさず、最高学年の誇りを持ち、懸命に部をまとめていた。

五十周年記念式典の演奏を大成功に終えた翌日。練習直前に突然、三年生全員が私のところへ来た。

「このままコンクールを迎えるのは嫌です。今の二年生と一緒に中部日本決勝大会に出たくありません。」

私は思いがけないA子の強い口調に驚き、その言葉と奥にある熱い思いが胸に突き刺さった。例年、文化祭のステージは、三年生が曲目や構成に最大限の工夫を凝らす。三年生はこの文化祭で先輩から受け継いだ全てを出し切り、下級生は、その姿から思いを受け継ぐ。ところが今年の文化祭ではその大切な部分が欠落していた。三年生と下級生では、コンクールに対する思いの差が、私の想像以上に大きかったのだ。

A子の言葉は、その溝を埋めようと必死に努力してきたがどうにもならぬ切なる叫びであったのだ。「よく言ってくれた。今の三年生の気持ちの全てを、二年生にそのまま正直に伝えてほしい。全員が一丸とならなければ最高の演奏はできない。まず心一つにして、残された一週間で君たちの全てを伝えてほしい。先輩としてできる限り……。」

その言葉を受けて、A子は部員全員を集め、その日の午前中、時間をかけて話し合った。A子を始めとす

る三年生は、今日に至るまでの思い、卒業した先輩から受け継いだ伝統を後輩たちへ必死に伝えた。かつてない真剣な話し合いであった。

その日の午後から、音色が一変した。集中力が全く違う。先輩の思いに応えようとする下級生。それをリードする三年生。実際の何倍も練習したかのように、一瞬一瞬上達していくのが伝わってきた。それは、A子も感じたであろう。

そして、迎えたコンクール当日、生徒たちは最高の弦楽合奏を披露した。どんな結果が出ても、悔いのない素晴らしい内容だった。聴衆の心を強く揺さぶる演奏であった。

「先生、創立五十周年の年に部長ができて本当によかった。」

全国一位の文部科学大臣奨励賞を獲得して、笑顔で語ったA子のこの言葉が、今も私の胸に残っている。



そのときの判断は、「子とともにあるか」ということが、基準にならねばならないと思います。その子は、伸びようとする意欲があるのか、否定的な考えでいるのか。与える負荷は、その子の可能性を引き出すのに適切な内容となっているのか。どのようないきさつがあつて、その子を指導することになっているのか。

こうしたことは、指導者が子とともにあることで判断できます。指導者が無理だと感じるものは、子供たちにとっても無理な負荷です。その判断は現場にいるからこそできるものであり、現場を大事にすること、つまり「子とともにあること」が大切になります。

子供たちの表の顔だけではなく内面の心まで理解するためには、教師はまず子供の近くにいなければなりません。子供たちの成長と毎日を共にする教育の場では、「子とともにあること」は、今までも大事な基本と言われてきました。

教育の現場を預かる私たちは、ことうした姿勢を今一度確認して、保護者の声にも真摯に耳を傾けつつ、自信をもって指導に当たっていききたいと考えています。



～カ・技・美の祭典～

【第56回岡崎市中学校総合体育大会総合開会式（平成24年・岡崎中央総合公園野球場）】

「葵三天イベント」カ・技・美の祭典」とは、「岡崎市中学校総合体育大会」（以下「総体」）、「造形おかざきつ子展」（以下「子展」）、「岡崎のハーモニー」（以下「ハーモニー」）の三つの行事である。

平成二十三年四月に、岡崎市教育委員会より「市の教育を代表する行事として、充実発展させていく」と発表された。本市には、素晴らしい行事や教育活動が多数ある。中でも、この三つの行事は、

- ・全ての学校が一堂に会し、市内の児童生徒の大多数が参加している。
- ・四十年から五十年という長期にわたり継続発展され、市民に親しまれている。

これらの理由により、他地区にない独自性を有した「三大イベント」として位置づけられた。

「総体」の総合開会式は、全中学校の選手と応援生徒が一堂に会して開催される。行進からも応援からも、母校の誇りを胸に取り組む中学生たちの真剣さが伝わってくる。

「子展」は、市内の児童生徒と市立の幼稚園児全員の力作が展示される。毎年新しいアイデアを取り入れた作品と展示が魅力となり、市民数万人の観客を引きつけている。

「ハーモニー」は、市内全小中学校の代表者が、学校間の垣根を越えて演奏する。学校やブロックで練習を積み重ね、大合唱をつくり上げていく。ステージで披露される演奏は観客に感動を与えている。

いずれの行事も、岡崎市の親子の世代を超えて受け継がれ、岡崎の心、ふるさとを愛する心の醸成につながっている。今後も若さあふれる力、技術や技能、様々な美しさが一層磨かれ、子供たちにとって価値ある教育活動になることが期待されている。

岡崎市中学校 総合体育大会

半世紀以上にわたり実施している伝統行事。それが岡崎市中学校総合体育大会です。その総合開会式では、市内の全校生徒が、競技だけでなく、行進・応援・合唱や演奏において、同じ時間を共有し、心を一つにすることができました。僕は、この場の全生徒の思いを代表して、市長さんの前で選手宣誓をさせていただきました。誇りと感謝の気持ちでいっぱいです。

（城北中・三年）

総合開会式会場の変遷

- 第1回～ 岡崎公園グラウンド
- [第6回 愛知県立岡崎北高校グラウンド]
- 第31回～ 愛知県岡崎総合運動場
- 第50回 岡崎中央総合公園野球場



【第15回総合開会式（昭和46年・岡崎公園グラウンド）】

造形おかざきっ子展



【第1回展（昭和38年・籠田公園）】



【第48回展 親子で楽しむ「子展ハットをつくろうコーナー」
（平成23年・おかざき世界子ども美術博物館）】



【第20回展を訪れた岡本太郎氏
（昭和58年・岡崎公園乙川河川敷）】

「おかざきっ子展を見た。本当に驚いた。あっ、これはピカソも岡本太郎もかなわねえなあと思う作品がブーと飾ってあった。～中略～本当に感動したなあ。岡崎へ来てうれしかった。」
昭和58年11月3日 岡本太郎氏



【第48回展 新設コーナー「おかざきの心」
（平成23年・おかざき世界子ども美術博物館）】

今年も「造形おかざきっ子展」の時期がやってきました。展示された作品は、太陽の光によって輝く幻想的なものや、立ち並ぶ木々の間で見つかるようなものもあり、見る人を引き込む「おかざきっ子」の美術館が展開されます。テーマに沿って色とりどりの作品が展示されるこの大イベントを、いつも楽しみにしています。
（南中・三年）

造形おかざきっ子展の歩み

- 第1回 籠田公園で開催。
- 第10回 東公園に会場を移す。会場が広がり全児童生徒の作品が展示される。
- 第15回 岡崎公園乙川河川敷に会場を移す。市立幼稚園が加わるようになる。
- 第20回 岡本太郎氏をお招きする。
- 第22回 「おかざき世界子ども美術博物館」が誕生し、子展の会場となる。自然の起伏を生かした展示が行われるようになる。

今年49回展。平成24年10月27・28日 おかざき世界子ども美術博物館にて開催



【第30回 特色ある音楽活動を紹介するステージで演奏する大樹寺小学校和太鼓『阿吽』（平成14年・岡崎市民会館）】



【第1回テーマは世界の民謡（昭和48年・岡崎市民会館）】

岡崎のハーモニー

岡崎のハーモニーで他の学校の子と同じステージに上がることで、私はいろいろな歌いや発声の仕方などを知ることができました。そして、本番では自信を持って歌い切ることができました。歌は人と人をつなぐことができ、自分を表現することができると思いました。
（連尺小・六年）

岡崎のハーモニーの歩み

- 第1回 岡崎市民会館で開催される。
- 第5回 全日本合唱教育研究会会員500人が全国から参集した。
- 第23回 岡崎出身の音楽家富田勲氏をお招きする。
- 第27回 創作曲を募集し、連尺小学校6年生の学年合唱曲「大河」が最優秀賞。
- 第28回 岡崎ジュニアコーラスの参加始まる。
- 第30回 岡崎ジュニアシンフォニックバンドの参加始まる。



【第39回 岡崎ジュニアシンフォニックバンドと合唱によるオープニング（平成23年・岡崎市民会館）】



【第38回 小学生Aブロック（平成22年・岡崎市民会館）】

今年40回の節目を迎える。
平成24年11月17日
岡崎市民会館にて開催



●教育最新情報

○研究発表会案内

十月、十一月は、小学校三校、中学校二校で研究発表会が開催される。

恵田小学校、大樹寺小学校、新香山中学校は市研究委嘱による発表で、恵田小と新香山中は初任者研修を兼ねる。下山小学校は、全国へき地教育研究連盟東海北陸地区協議会の委嘱で、東海北陸地区へき地教育研究大会と愛知県へき地教育研究大会を兼ねている。竜海中学校は自主発表である。また、本宿小学校は十一月に授業公開を、生平小学校は二月に紙上発表を行う。

それぞれの研究の成果を学び、今後の子供の指導や学校作り、授業実践に役立てていきたい。

◆岡崎市立恵田小学校

十月十日(水)

※市研究委嘱(H22)

「自ら進んで学び続ける子の育成」家庭と連携した学習ノートの活用を通して」

家庭との連携を取り入れた活動を授業の中に位置付け、実践している。学習ノートに授業の振り返り、教師の朱書き、保護者コメント等を入れ、それを活用した授業展開の工夫を行う。学習ノートを中心に家庭と連携をして学習習慣の確立を図る。当日は英語タイム、国語、算数の授業公開、授業を語る会を行う。

◆岡崎市立大樹寺小学校

十月十七日(水)

※市研究委嘱(H22)

「郷土に誇りをもって、新しい未来を切り拓く大樹寺っ子の育成」自立の心を育む『家

康学習』を通して」

地域への愛着を深め、未来をつくる一人として、他者と協調しながら粘り強く努力を続ける子供の育成を目指す。本校や地域の特色を生かした「家康学習」と「自立活動」を研究の柱として、心の教育に取り組んできた。当日は、「自立の放送」と授業公開、授業者と語る会を行う。

◆岡崎市立下山小学校

十月二十六日(金)

※全国へき地教育研究連盟

東海北陸地区協議会委嘱
「確かな学力を身につけ、表現力豊かな下山っ子」スピーチ、読書「ことばタイムと国語科の授業を中心に「伝え合う力」を培う」

複式学級において、国語科の授業やスピーチタイムでの「伝え合う場の設定」の工夫と、言語力を豊かにする「読書・ことばタイム」の実践を研究の柱とした。当日は、午前日程で「ことばタイム」と国語科の授業公開、研究発表・協議会を行う。

◆岡崎市立新香山中学校

十一月十四日(水)

※市研究委嘱(H22)

「環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成」環境学習を基盤としたESDの展開」環境に対する豊かな心や実践する力の育成を目的に、岡崎市環境学習プログラムの実践検証に取り組んできた。これまで、地域教材の開発や探究学習の授業構成と教師支援、ESDの手立ての研究を進めてきた。当日は、MDT(ミニディスカッションタイム)、総合的な学習、道徳の授業公開、シンポジウムを行う。

※自主発表
「自ら学び、表出する生徒の育成」コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に」

◆岡崎市立竜海中学校

十一月二十日(火)

他との「かかわり」や「つながり」を意識したコミュニケーション活動を意図的に取り入れ、生徒の主体的な学びをさらに広げられるよう、実践研究に取り組んでいる。当日は、授業、CMT(振り返りとコミュニケーション活動)の公開、教科別協議会を行う。

◆岡崎市立生平小学校

二月二十五日(月)

※自主 紙上発表

「地域に働きかけ、追究し続ける子供の育成」ふるさと学習の継承と創造」

本校の特色である「ふるさと学習」(愛鳥・野生生物保護活動を中心に据えた生活科・総合的な学習の時間)を軸に、生平の自然や文化、地域の人々に学ぶ授業の創造を目指してまとめる。

◆岡崎市立本宿小学校

十一月二日(金)

※授業公開

「生きる力を育む小学校英語の創造」英語が話せる本宿っ子をめざして」

児童が思いや考えを英語で伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を求めて研究四年目を迎えた。当日は、Eタイム(DVD視聴)と英語活動の授業公開、授業を語る会、文科省調査官平木裕先生の講演を行う。

●表彰

◆第39回全日本中学校総合体育大会

陸上競技の部

男子四種競技
七位 六美中三年 大浦 優太

◆全国大会その他の出場者

陸上競技の部
女子二〇〇M
矢作北中三年 松本 扶弥

女子走り高跳び
城北中二年 浅井さくら
城北中三年 加藤 彩

水泳競技の部
男子四〇〇Mメドレーリレー
東海中学校
磯部 太一・松田 健吾

剣道男子の部
渡辺 輝・河合 諒哉
矢作北中三年 塩谷 裕斗

◆第34回東海中学校総合体育大会

陸上競技の部

男子八〇〇M
五位 矢作中三年 渡邊寿希也
男子三〇〇M
二位 東海中三年 鈴木 貴博

女子一年八〇〇M
五位 常磐中二年 宇野 佑紀

女子二年一〇〇M
五位 磐山中二年 野中あおい

女子二〇〇M
三位 矢作北中三年 松本 扶弥

水泳競技の部
男子四〇〇Mメドレーリレー
四位 東海中学校

磯部 太一・松田 健吾
渡辺 輝・河合 諒哉

女子二〇〇M背泳ぎ
四位 城北中三年 千明 楓花

女子二〇〇M平泳ぎ
五位 矢作北中三年 余合 結

女子一〇〇M背泳ぎ
五位 矢作中三年 宮島 夏希

◆第67回東海吹奏楽コンクール
A編成
銀賞 竜海中学校

◆平成24年度愛知県吹奏楽コンクール
A編成
金賞 竜海中学校
銀賞 美川中学校

◆中部日本吹奏楽コンクール
愛知県大会
大編成
優秀賞 美川中学校
優良賞 北中学校

◆第30回岡崎創意くふう展
市長賞
六美南部小三年 牧 優希
竜海中三年 清水 友裕

市議会議長賞
優良賞 矢作北中学校

◆NHK全国学校音楽コンクール愛知県大会
金賞 六ツ美北中学校
※東海北陸ブロック大会出場

銀賞 三島小学校

◆愛知県合唱コンクール
金賞 六ツ美北中学校
※中部大会出場

銀賞 南中学校
銀賞 竜海中学校

◆平成24年度「子とともにゆう&ゆう」第47回作文コンクール
最優秀賞
根石小六年 柴田向日葵

優秀賞
根石小六年 加藤 楓花
根石小六年 吉田 絢音

◆平成24年度少年の主張愛知県大会
優秀賞(愛知県青少年育成県民会議会長賞)
常磐中三年 中西 佳子

市長賞

市議会議長賞

優良賞 矢作北中学校

優良賞 矢作北中学校

矢作北中一年 酒徳 祐貴
教育委員会賞
六ツ美北小六年 伊豫田里歌
広幡小五年 林 寛美

六ツ美中二年 小川 智史
商工会議所会頭賞
矢作東小五年 野村 樹生

城小中三年 上久保咲希
発明クラブ会長賞
城南小四年 吉野 寛和

美川中二年 金澤あかり

◆第26回岡崎市中学生の主張コンクール
優秀賞
竜海中三年 田島 綾香
六ツ美北中三年 岩瀬 美穂

矢作北中三年 高橋 克弥
矢作中三年 松本 寧々

六ツ美北中二年 福澤 心
葵中三年 青山 瑞季
竜海中三年 三浦 舞香

竜南中二年 中川 董
額田中三年 柴田 華蓮

婦国子女の部入賞
附属中二年 國枝 真衣
矢作北中二年 本多 晴登

城北中三年 加藤 彩

市議会議長賞



紹介される主張コンクール出場者



小学生のペア発表

◆第54回岡崎市小中学生英語スピーチフェスティバル
一般の部入賞
常磐中三年 瀬川 昌也
美川中三年 加藤 琴美

矢作中二年 伊藤 千尋
六ツ美北中二年 福澤 心

葵中三年 青山 瑞季
竜海中三年 三浦 舞香

竜南中二年 中川 董
額田中三年 柴田 華蓮

婦国子女の部入賞
附属中二年 國枝 真衣
矢作北中二年 本多 晴登

城北中三年 加藤 彩

・カ
ツ
ト
六ツ美南部小 山中好乃

三校合同交流会

(平成13年)

写真提供：竜南中学校

平成十年に改訂された学習指導要領に基づき、「生きる力」を育むために、本市においても小中連携教育の研究が進んだ。その一つとして、竜南中学校、上地小学校、緑丘小学校の三校は、平成十二年度に市より研究委嘱されたことをきっかけに、平成十三年度から交流活動を始めた。

内容は、「ふれあいデー」と名付けた日に、レクリエーションやランチタイムで一緒に過ごす三校兄弟学級の交流、授業や学校行事での交流、合同奉仕活動等である。人と人との交流を重点に、三校のふれあいを深めている。

地域や学校の特徴を生かした小中の交流は、大切な教育活動として、他の学校でも継続されている。



親切という花言葉のオミナエシ。秋の七草の一つだ。地味でたまたまは、おとなしいが、端正で美しいその姿は昔から日本人に広く愛されている。目立たずとも、人にさりげなく親切にすることを美しいとする日本人としての美学に、奥ゆかしさを感じる。

秋の夜長、月を愛で、家の中に季節の花などを飾ってみようか。

シオ スア

「スクールの子供たちに囲まれて、思い切りモダンダンスに打ち込める今の環境は、他所に行ったらなくなってしまうわけです。東京に行ったらからといって、ダンスがうまくなるわけでもありません。」

目を輝かせて語る石川さんに、ダンスと郷土を愛する心を見た。学芸会に近い。私も思い切り子供たちの前で演じてみよう。

大人たちの選挙にも負けない、やる気に満ちた演説が校内に響きわたる。「学年の枠を超えた活動を取り入れ、生徒同士がより関わりあえる学校にしたい」「あいさつ運動等を地域に広げること、地域との連携ができる学校にしたい」など、後期生徒会役員に立候補する生徒の意気込みが伝わってくる。中学校を自主的に牽引する、リーダーシップに期待が高まる。

葵三大イベントの「ハーモニー」「子展」の季節がやってくる。イベントを楽しむ家族から、「お父さんの時は……」「おばあちゃんの時は……」と絆を強める会話が紡がれるのではないだろうか。三つの行事以外にも何十年と続いている素晴らしい行事や教育活動がいくつもあろう。

岡山市の教育の確かな歩みを改めて誇りに思う。

この本を

- * 「いい病院」への挑戦
患者のためにできること
宗田 理・宗田 律
角川フォレスト ¥1,365
 - * 聞く力
心をひらく35のヒント 阿川佐和子
文春新書 ¥840
 - * 99のなみだ・桜
リンダブックス編集部 編 ¥600
 - * 奇跡の夢ノート
石黒由美子
NHK出版 ¥1,470
 - * 希望の地図
重松 清
幻冬舎 ¥1,365
東日本大震災後、著者は何度も何度も被災地を訪れ、取材活動を続けている。本書は、その過程から生まれた物語である。中学受験に失敗して不登校となった主人公が父の友人であるフリーライター田村に同行し、実在の人へのインタビューから心の成長を重ねていく。「いじめ・不登校問題」を取り上げた作品が多い重松ワールドに、また引き込まれた。さらに、希望の道筋をつかむことができる一書であった。
- 山中小 高橋由美子